

特別講演「羽倉弘之 氏と 3D : 活動と著作の紹介」

桑山哲郎 (Tetsuro KUWAYAMA) / 3D フォーラム事務局代行

連絡先 : tkuwa@ga.catv-yokohama.ne.jp

1. はじめに

羽倉弘之 氏は 2016 年 10 月 30 日、満 70 歳で逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。3D フォーラムの事務局作業を継続するために長野のご自宅を訪問し、3D フォーラムの業務関係に加えてご経歴とご著作に関する資料をいただきました。また、国立国会図書館などのデータベースからも、ご著作活動についての情報を入手することができます。

ご本人が亡くなられていることから多少の見落としが生じることは避けられませんが、可能な限り著作をリストアップすることにいたします。なお、東京国際大学、デジタルハリウッド大学大学院ほかで熱心に教育活動をされ、講義資料も一部いただいているのですが、今回の報告からは割愛させていただきます。

2. ご略歴

本人が外部に公表している資料から、略歴をまとめました。

表 1 羽倉弘之 氏ご略歴

1946年2月22日	誕生 (東京都港区高輪)
1965年3月	芝高等学校 卒業
1970年3月	東京国際大学 卒業
1970年6月	米国 Florida 州 Miami 大学 大学院入学 【航空 (交通) 経済学および都市計画論を専攻】 (学費, 生活費を含む全額支給奨学金による留学)
1972年9月	米国 New York 州 Columbia 大学 大学院 博士課程入学 【ロジスティックス (輸送, 物流, 流通) 論を専攻】 (学費, 生活費を含む全額支給奨学金による留学)
1974年2月	Columbia 大学 大学院 (ビジネススクール) 卒業 (学位 : MBA = Master of Business Administration 経営学修士)
1974年4月	財団法人流通システム開発センター (通産省外郭研究所) 入所 研究員
1979年10月	日本ポラロイド株式会社入社 (社長室, 経営企画室, 営業企画, 電子映像部マネージャー等を歴任)
1985年	つくば科学万博の日本ポラロイド株式会社展示ブースの責任者として, ホログラム他の展示を担当
1984年~1985年	「ステレオグラフィックス & ホログラフィ ザ 3D」の企画立案 (実質は一部執筆)
1986年~1987年	3D フォーラム (三次元映像のフォーラム) 設立準備にかかわる 設立発起人として 1987年8月 第1回研究会を運営
1995年1月	アートウェア株式会社 代表取締役社長就任 (3DCG, アニメーション制作ソフト開発, 販売)
1995年1月	株式会社 MK (代表取締役 : 金子満) 取締役 (3DCG, アニメーション制作ソフト/ゲーム開発, 販売)
1995年4月	東映アニメーション研究所 専任講師 (CG, 英語他)
2000年4月	アートウェア株式会社 代表取締役会長
2000年7月	株式会社 MMDA (ICT デザイン関連企業) 代表取締役専務, 後 代表取締役社長
2000年7月	東京国際大学 非常勤講師 (マルチメディア論・実習, CG 論・実習, ICT / ネットワーク) 他,
2001年4月	東京工業大学 大学院 情報理工学研究科 科学研究支援員他
2003年4月	東京工業大学 大学院 情報理工学研究科 計算工学専攻 (博士後期課程) 入学
2004年4月	東京大学 (柏キャンパス) 新領域創成科学研究科と共同研究 : MEG[脳磁図]装置を使用して脳の高次機能研究
2004年8月	3D フォーラム事務局に就任 【それまで 3D フォーラムの名簿管理・経費管

	理を委託していた 財団法人 日本学会事務センター破産に伴い】
2005年2月	愛知万博日本政府館立体映像（世界初の大型裸眼立体投影装置）研究開発関係業務【10月まで】
2005年4月	文教大学 大学院 情報学研究科 情報学専攻 グラフィック特論 教員
2005年11月	東京大学 大学院 情報学環 コンテンツ創造教育研究コア 特任研究員および非常勤講師
2010年4月	デジタルハリウッド大学 大学院 特任教授（立体映像研究プロジェクト）
2010年4月	スリーディチャンネル株式会社（3Dchannel, Inc.）創設 代表取締役社長 /CEO
2011年5月	3Dフォーラム 代表幹事を兼任
2016年10月30日	ご逝去
2017年3月28日	「羽倉弘之 様を偲ぶ」3Dフォーラム第119回研究会を、HODICとの共催で東京工業大学 大岡山キャンパスを会場に開催

3. 最初の解説執筆（翻訳）と著作

著作と解説等のリストを掲載する前に、羽倉弘之 氏の最初の雑誌掲載（翻訳）と著作について触れます。羽倉弘之 を著者名として国立国会図書館のデータベースで検索すると、1971年5月の「国際航空事故における適正な裁定（翻訳）」が一番古い文書としてヒットします。発行時期は羽倉氏が大学を卒業した直後であることから、大学在学中の執筆になります。東京国際大学のある教授のゼミで熱心に勉強し、解説の翻訳と専門誌への掲載という業績を早期にあげられていた事が分かります。

もう1冊、最初の著作である「ステレオグラフィックス & ホログラフィ ザ 3D」の経緯について、説明が必要です。私は執筆の企画がスタートした時点から相談・報告を受けていたのですが、1985年に産業報知センターから刊行されたこの本には、安居院猛先生、中嶋正之先生と共著のはずの羽倉氏の名前がありません。これについては、個人的な事情で共著者として名前を連ねるには不都合があったため（確実性の低い情報で申し訳ありません）と伺っています。その後この本を発行元が倒産し、改めて秋葉出版より、安居院・中嶋・羽倉3名の共著として発行され、データベースでもこの3人連名となっています。重要な業績が埋もれていないのは喜ばしい事です。



図1 羽倉氏の著作の表紙

4. 著作リスト

著作物、特に定期刊行物（学会誌など）の情報は、単なる検索エンジンでは一部がヒットせず、特定のデータベースのトップページから検索すると良いという経験則（私見ですが）があります。和文の刊行物では、国立国会図書館のデータベース検索が有用です。著作権の関係でデジタル化したデータは公表できないが、図書館内では閲覧と必要ページのコピーが可能という情報も得ることができます。

<http://iss.ndl.go.jp/>

また、書作の「名寄せ」を行っている機能を持った、国立情報学研究所のサイトも有用です。同姓同名の複数の著作者がある場合は個別に集計されています。「羽倉弘之」という執筆者は1名だけで、22件の著作を知ることができます。

<http://ci.nii.ac.jp/nrid/9000004906125>

表1 単行本リスト（羽倉氏 単独執筆は著者名を省略）

No.	刊行日	書誌データ
1	1985年	安居院猛, 中嶋正之 共著, 「ステレオグラフィックス & ホログラフィ ザ 3D」, 産業報知センター
2	1985年	安居院猛, 中嶋正之, 羽倉弘之 共著, 「ステレオグラフィックス & ホログラフィ ザ 3D」, 秋葉出版
3	1991年	羽倉弘之, 坂内正夫, 「三次元映像」, 産業図書株式会社
4	1993年	羽倉弘之, 中嶋正之, 「リアルカラーハードコピー」, 産業図書株式会社
5	2003年	羽倉弘之, 中嶋正之, 「CG 基礎用語辞典」, CG-ARTS Association
6	2004年	P.ハリハラン 著, 吉川浩, 羽倉弘之 訳, 「ホログラフィの原理」, オプトロニクス社
7	2005年	可兒鈴一郎, 羽倉弘之 共著, 「ユビキタス時代のコミュニケーション術」, 清流出版
8	2006年	尾上守夫, 池内克史, 羽倉弘之 編, 「3次元映像ハンドブック」, 朝倉書店
9	2006年	羽倉弘之 監修, 「まるまる! スーパーリアルビジョン: 概論/研究事例/応用事例/製品紹介」, 産業開発機構 2006 (映像情報 mook)
10	2007年	辻内順平 監修, 岩田藤郎, 植田健治, 久保田敏弘, 佐藤甲癸, 羽倉弘之, 橋本信幸, 吉川浩 編, 「ホログラフィ材料・応用便覧」 エヌ・ティー・エス
11	2009年	羽倉弘之 監修, 「まるまる! スーパーリアルビジョン」 産業開発機構 2009 (映像情報 mook)
12	2011年	「フレキシブルエレクトロニクスデバイスの開発最前線: アンビエント社会を実現するキーデバイスの開発現状と応用展開」 エヌ・ティー・エス, 2011-11-10
13	2012年	羽倉弘之, 山田千彦, 大口孝之 編, 「裸眼 3D グラフィックス = Auto-Stereographic 3D」, 朝倉書店

表2 論文・解説リスト（共著者名は一部省略）

No.	刊行日	書誌データ
1	1971年5月	J.E. スティーブソン著「国際航空事故における適正な裁定（翻訳）」（J.E. Stephen; The Adequate Award in International Aviation Accidents, 1966）, 航空法務研究 (7), 66-76, 1971-05
2	1974年9月	物流の合理化—コンテナ輸送システムによる協同一貫輸送の実現, 流通情報(68), 流通情報, 流通経済研究所, 45-51, 1974-09
3	1974年	PHYSICAL DISTRIBUTION MANAGEMENT, 流通とシステム(2), 流通システム開発センター, 69, 1974
4	1975年7月	受注システムの設計法, 流通設計 6(7)(58), 輸送経済新聞社, 89-91, 1975-07
5	1975年10月	物流システム改善シリーズ(No.3)新物流体系への挑戦と輸送思想の変革 高速・大型化の限界から実質的効率化へ, 流通情報(77), 流通情報, 流通経済研究所, 26-30, 1975-10 情報
6	1975年10月	コンビニエンスストア, 流通とシステム(5), 流通システム開発センター, 77, 1975-10
7	1977年9月	"The Computer Challenge in Retailing", 流通とシステム(13), 流通システム開発センター, 86, 1977-09
8	1978年4月	ロジスティックスこれからの経営戦略のカナメ / ジェイムス・L・ヘスケット; 羽倉弘之, Diamond ハーバード・ビジネス, 89-102, 1978-04
9	1987年4月	巻頭言『ホログラフィの美学』, HODIC Circular, Vol. 7, No. 2, 1987

10	1987年7月	S1-8 3次元映像ディスプレイの種類と応用分野, テレビジョン学会全国大会講演予稿集 (23), 439-442, 1987-07-01
11	1988年1月	三次元映像による教育分野への応用: 画像処理・画像応用, テレビジョン学会技術報告 12(5), 1-4, 1988-01
12	1988年4月	1) 3次元映像による教育分野への応用(画像処理・画像応用研究会), テレビジョン学会誌 42(4), 404, 1988
13	1989年6月	三次元映像の応用分野, 3D映像, Vol.3, No.3, 1989
14	1989年10月	三次元映像に関するコレクション, 3D映像, Vol.3, No.4, 1989
15	1991年10月	三次元映像の応用分野と今後の発展, オプトロニクス, オプトロニクス社, 1991年10月, 55-58
16	1992年4月	3次元映像の応用分野と今後の発展--産業分野への応用と今後, 画像電子学会誌 21(2), 166-169, 1992-04
17	1992年11月	人工(仮想) 現実感関連書籍紹介, 3D映像, Vol.6, No.3, 1992
18	1995年1月	大越孝敬先生を偲んで, 3D映像, Vol.9, No.1, 1995
19	1995年11月	ポスト 3DTV:テレビは進化する! 「入れるテレビ」から「創造するテレビ」へ-, テレビジョン学会誌 00049(00011), 1441-1445, 1995-11-20
20	1996年4月	三次元映像の過去, 現在, 未来, 3D映像, Vol.10, No.2, 1996
21	1996年7月	3Dカメラ, グッズコレクション展示, 3D映像, Vol.10, No.3, 1996
22	1998年5月	最近の3DCGの動向, 3D映像, Vol.12, No.2, 1998
23	1998年9月	最近の3DCGの動向--『タイタニック』で多用されたVFX(視覚効果)を中心に, 画像ラボ 9(9), 5-9, 1998-09
24	1999年12月	第50回目の研究会に向けて思うこと, 3D映像, Vol.13, No.4, 1999
25	2003年	辻内順平, 羽倉弘之, ホログラフィの過去/現在/未来 (特集 2 ホログラフィック・アート), ディーバ (5), 65-69, 2003
26	2003年3月	山口晃弘, 羽倉弘之, 齋藤豪, 高橋裕樹, 中嶋正之, D-11-104 計算機支援による実版木からの版画の再現第一報, 電子情報通信学会総合大会講演論文集 2003年_情報・システム(2), 104, 2003-03-03
27	2004年	3D映像-その最前線: 未来の三次元映像フロンティアに向けてのブレイクスルーとは, 日本写真学会誌 67(Suppliment2), 28-31, 2004
28	2004年	三次元映像の種類と歴史 (特集 CG30年の歩み、そして未来へ) -- (CG技術史), ディーバ (6), 36-43, 2004
29	2004年3月	ベントン先生の思い出, 3D映像, Vol.18, No.1, 2004
30	2004年3月	ベントン先生の思い出, HODIC Circular, Vol. 24, No. 1, 2004
31	2004年3月	羽倉弘之, 油井慶康, 中嶋之, 大脇崇史, 武田常広, A-14-5 三次元映像観察による眼精疲労の基礎研究(A-14, ヒューマンコミュニケーション基礎), 電子情報通信学会総合大会講演論文集 2004年_基礎・境界, 276, 2004-03-08
32	2004年5月	3次元映像の種類と歴史, 3D映像, Vol.18, No.2, NICOGRAPH2004
33	2004年11月	未来の三次元映像フロンティアに向けてのブレイクスルーとは (講演要旨 2004年度 日本写真学会秋季大会・研究発表会) -- (特別企画講演 3D映像--その最前線), 日本写真学会誌 67(-), 28-31, 2004-11
34	2005年6月	2005年“愛・地球博”における三次元映像, 3D映像, Vol.19, No.2, 2005
35	2005年	2005年「愛・地球博」での三次元映像 (第1特集 今世紀初のイベント 愛・地球博を見倒す), ディーバ (9), 28-35, 2005
36	2005年9月	SIGGRAPH 2005 報告, 3D映像, Vol.19, No.3, 2005
37	2005年12月	大画面立体映像の品質・心理評価, 3D映像, Vol.19, No.4, 2005
38	2006年1月	“Study of Asthenopia Caused by Watching Stereoscopic Images Measurement by MEG and other devices”, SPIE : The International Society for Optical Engineering 投稿 2006
39	2006年5月	大画面3DCG映像の品質評価, 3D映像, Vol.20, No.2, 2006
40	2008年	高田哲雄, 広内哲夫, 平野雅道, 羽倉弘之, 海津ゆりえ, 若林一平, 3DF立体映像による湘南観光資源アーカイブの構築の研究(研究論文), 湘南フォーラ

		ム：文教大学湘南総合研究所紀要 12, 117-137, 2008-03
41	2008年	広内哲夫, 羽倉弘之, 高田哲雄, 徳永健一, X3D/VRML97 で創られた仮想世界を立体表示するステレオビューア：彩画 3D をベースにしたその開発, 情報研究 39, 195-228, 2008-07
42	2008年3月	報告：三次元映像等最新映像技術を紹介する学会・展示会 “IS&T/SPIE Electronic Imaging”, 3D映像, Vol.22, No.1, 2008
43	2009年	3D映像技術と事業化の先端動向, 映像情報メディア学会技術報告 33(4), 11-16, 2009-01-22
44	2010年10月	3Dディスプレイ--総論 (特集 3Dディスプレイ徹底解剖), ディスプレイ 16(10), 1-5, 2010-10
45	2010年11月	序論 3Dの夜明け (まるまる! THE 3D--観る・創る・撮る), 映像情報 industrial 42(13), 4-8, 2010-11
46	2010年11月	小山一彦, 羽倉弘之, 対談 3D映像制作の今と未来 (まるまる! THE 3D--観る・創る・撮る), 映像情報 industrial 42(13), 62-68, 2010-11
47	2011年9月	代表幹事就任の挨拶, 3D映像, Vol. 25, No. 3, 1, 2011
48	2012年1月	3Dディスプレイの展望,2012年：3Dコンテンツ制作側から始まった新しい動き (特集 2012年の FPD 展望とスマートシティへの期待), ディスプレイ 18(1), 11-15, 2012-01
49	2015年4月	2D映像から 3D映像へ (特集 三次元表現技術), 光アライアンス 26(4), 1-4, 2015-04

以上、機会があればまとめて報告したいと思っていたリストです。羽倉弘之氏の、3D映像に関する社会的な活動や教育活動については、とても追いきれないので掲載を断念しました。この報告をお読みいただいた方から、情報をお寄せいただければ幸いです。

(以上)